

■ 株式会社 GIFT&GIFT

評価：商店街を含む地域の活性化を図るため、空き店舗を活用し、企業に雇用された障がいのある方が食堂運営に関わるといった取組みにチャレンジされた。当初予定していた場所での開設はできなかったものの、大規模小売店と商店街との連携した取組みとなった。

Q：当初の目標であった地域食堂モデルの確立、利用者数についてはどうだったのか。

A：食堂開設時期が2月（週3日営業）に遅れたこともあり、障がい者の接客などの研修開始が3月中旬となったが、商店街と連携した一定のモデルができたと思います。また、利用者は1日平均30名程度で地域に浸透しつつあります。

Q：地域の子どもや高齢者の孤食についての具体的な支援について、商店街の役割は。

A：商店街には魅力ある様々なお店が集まっています。「平野宮町みんな食堂」では、多世代交流や住民の困りごとヒアリングなどを実施しているが、様々な店主のノウハウや専門性をいかして、この困りごとの解決やお店の魅力の発信も可能ではないかと思います。今後も、食堂と商店街とが連携した取組みを行っていきたいです。

Q：翌年度、食堂を継続するためには、その賃料を確保する必要があるが、どのようにしてその経費を確保していくのか。確保できる見込みはあるのか。

A：当社では、企業が障がい者を雇用した後の訓練場所として「みんな食堂」を運営しています。この取組みを企業にPRしたところ、現在、数社から問合せがあり、そのうちの1社と契約を締結し、3月中旬から研修を開始しています。この企業からの訓練指導費や休眠預金の助成金の活用などにより、必要経費を確保していく見込みです。